

だいきく通信 第四十九号 「春の号」

いあーっ

三月になりました。花粉症もちにはつらい季節ですが、今年は境内の梅が長く咲いて、赤い色と甘い香りを十分に楽しませてくれました。

しかしながら、新型コロナウイルスは依然として猛威を振るっています。加えて、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻という重大な出来事も起き、ますます落ち着かない日々が続いています。

こんなときこそ、ごく短い間でも気持ちの落ち着きを取り戻すための時間を持てると良いですね。

社報「だいきく通信」第四十九号をお届けいたします。

今回の内容は、最近の当神社の話題、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



大国神社の今

前号までお伝えしておりました通り、当神社境内の、神社の由来を記した石碑を再制作する作業を進めておりましたが、昨年十一月二十六日に新しい石碑を無事設置することができました。ご参拝の折にご覧いただければ幸いです。



碑文の前半は当神社の由緒が記されており、当神社は、天明三年に大島家の先祖が下野の国（現在の栃木県）から駒込に移ってきたことに始まるとされております。江戸期には徳川家斉公が参拝したといったことも述べられております。

後半はこの碑を建てた藤田宗次郎という人物についての紹介で、当神社を熱心に信仰していた藤田氏が、営んでいた薬種問屋の繁盛を感謝し、碑を建立した旨が記されております。

碑文の翻刻を社報第九号に掲載しており、電子ファイルで読みいただけます。QRコードからご覧ください。



お宮あれこれ 月の異称

一年の各月には異称（別名）があります。今回は月の異称についてお話ししましょう。

三月の異称の「弥生」は人名としても用いられますし、地名としても、文京区の弥生は弥生式土器が発見された土地として有名です。「やよい」の語源として、江戸時代の『和句解』

（寛文二年（一六六二））は「いや+おい」と分析して、「草木がいよいよ花葉を生じる意」と説明しています。「いや」は「ますます」という意味の古い言葉で、祝詞でも「いや栄えに栄え」（ますます栄えて）などの形でよく用いられる言葉です。なお、「おい」は「生ふ」（植物が生える）という古語の

動詞の活用形で、現代でも「生い茂る」などの形で生き残っています。

もともと暦は、種まき、収穫など農耕のタイミングを知らせることが重要な役目だったと考えられます。月の名前もそういったことを反映しているものがいくつかあります。

三月の次の四月は「卯月」ですが、「卯月」は「稲の種を植える月だから「植月」という説もあるそうです（社報四十五号でもご紹介しました）。続く五月は「皐月（さつき）」で、「サナヘツキ（早苗月）」、つまり「早苗を植える月」という説もあります。

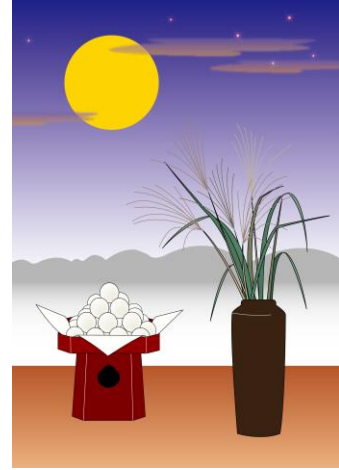
六月は「水無月（みなづき）」ですが、「な」は本来は「の」の意味で、「水の月」つまり「田に水を引く必要のある月」という説があるとのことです。七月は「文月（ふみづき・ふづき）」といいますが、これは「稲の穂のフミヅキ（含月）」あるいは「ホミヅキ（穂見月）」という意味、八月の「葉月（はづき・はつき）」については、

「ホハリ（穂発・穂張）月」で、「稲の穂をはる月」と説く説もあるようです。このように、特に稲作に関係する表現が月の名前として用いられているという考え方があります。米が非常に大切されてきたということが改めてよくわかります。

さて、月の異称には、もう一つ「孟春、仲春、季春」のように「孟」「仲」「季」という漢字を使った言い方があり



ます。一年を春夏秋冬に分け、一月から三月を春、四月から六月を夏、七月から九月を秋、十月から十二月までを冬として、それぞれの三つの月を「孟——」「仲——」「季——」という言い方であらわしました。つまり、「孟春」は一月、「仲春」が二月、「季春」が三月です。この言い方で最もよく知られているのは「仲秋の名月」の「仲秋」でしょう。また、



「孟」「仲」「季」をまとめて「三春」のように「三——」という言い方もあります。

ではなぜこのような漢字を用いるのかといいますと、兄弟の順序をいう「伯（孟）仲叔季」からきています。伯・孟は最年長者、仲はその次、叔はさらにその次、季は最年少者です。

「伯母」「叔母」などの表記で目にする文字です。「実力が伯仲する」という言い方もこの表現に由来するものです。

月の名前はわたくしたちにとってごく身近なものです。少し調べてみると、日本の社会や日本語がたどってきた長い歴史をよくあらわすものだということがわかります。月の名前を手掛かりに、言葉の歴史を紐解いてみるのもおもしろいでしょう。

参考文献 『日本国語大辞典』（小学館）、『日本大百科全書』（小学館）、『世界大百科事典』（平凡社）（ジャパンナレッジ利用）

祭礼・祈禱などのご案内

○次回甲子祭

令和四年五月十一日（水） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話 ○三―三九一八―七九三〇

携帯 ○八〇―一九八七―八七二六

メール daikokujinja@gmail.com



(連載まんが)

大吉うさぎ ～神社なぞなぞ～ くま こまち 作



次号発行予定
「だいいく通信第四十九号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、令和四年七月十日の甲子祭に発行予定です。



「だいいく通信」第四十九号 令和四年三月十二日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>